

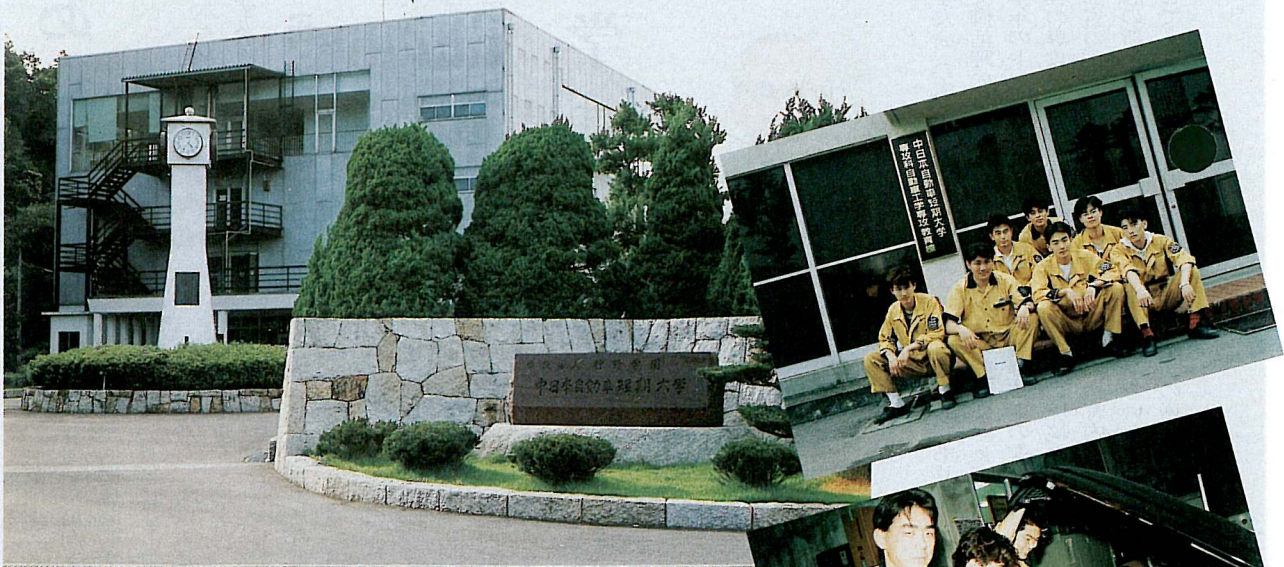


学友会会報

第12号

発行 中日本自動車短期大学学友会事務局

〒505 岐阜県加茂郡坂祝町深堂1301 ☎(0574)26-7121



専攻科一期生

専攻科の紋章

ワッペンのは、坂祝町が郷部山を中心としたドーナツ型の地形をしていることからヒントを得ています。中心部分の図柄は、アルファベットのNACをデザインしています。また、青赤緑の三色は、青が技術の向上を、赤が学問への情熱を、緑が自然環境にやさしい豊かな心をイメージしています。



専 攻 科 開 設

会報発刊にあたって



中日本自動車短期大学

学友会会長

丹地 章 夫

本年も会報発刊の時期となりました。

会員の皆様方には、増々御健勝で御活躍の事と、お慶び申し上げます。本年度の事業計画も順調に実施されており、ここに御報告申し上げます。

昨今の自動車業界を取り巻く状況には実に厳しいものがあり、長期の展望に立った打開策を暗中模索しているのが現状です。

この様な中であって、母校に於かれましては、本年度よりいよいよ専攻科も設置され、初めての教育も着々と進んでいる事と耳にするにつけ、将来の自動車業界の中樞を担うであろう若者の養成に御努力頂いている事とたのしく感じると共に、母校の発展を心より嬉しく思っております。

前号でも申し上げました通り、

学友会のご当面の重要事業は、支部設立です。

この様な自動車業界の厳しい現

学長の挨拶



中日本自動車短期大学

学 長

宮岡 達 志

学友会（卒業生）の諸君、お元気で御活躍のことと存じます。

本年のトップニュースは、二年課程の専攻科（入学定員二十名）が文部省の正式の認可を受けて、四名の新生（第一期生）を迎えたことであります。専攻科の設置は

状を踏まえ、会員同志、より緊密な連絡を取りあい、前向きな意見交換ができ、切磋琢磨しあつて、学友会本来の目標に少しでも近づいて行けたなら、すばらしいと思っております。

そして、この会が少しでも會員の皆様にとって、より身近なものになって行く事を願っています。最後に、会報発刊にあたり御尽力頂きました関係諸兄、特に学内OB諸兄に対し、心より厚く御礼申し上げます。

永年の課題でありました。当初は一年課程で考えていましたが、その後の技術の進歩や自動車を取り巻く社会環境の変化などから、専攻科の教育内容を充実させなければならぬと判断し、そこで履修単位数の増加に踏み切り、二年課

程の専攻科を決意したのであります。本学の創立当時は文部省をはじめ社会一般に、自動車工学は独立した学問としては認められていなかったのです。実情はあくまでも機械工学の一分野としてしか認められず、従つて四年制大学でも交通機械工学科の中でしか存在できなかったのです。それが今回自動車工学が正式に独立した学問として認められたのです。この背景の上に、自動車工学を専攻する二年課程の専攻科が認可されたのです（正式名称「専攻科 自動車工学専攻」）。この意義は大きいと言わざるを得ません。

さて、自動車工学を専攻する専攻科を開設するのですから、我々は自動車工学を学問的に体系化しなければなりません。このことは大変困難な問題です。何故ならば、日本にはまだどの大学の工学部にも自動車工学という学科はありません。従つて我々は前人未到の新天地を切り開いて行かなければならないのです。私はクルマ社会全体を視野に入れた学問的な体系化を目指す必要があると思ひます。昨今の自動車を取り巻く環境を見ると、自動車技術の進歩、エレクトロニクス技術のすば

らしい発達に加え、新素材の導入、環境対策技術などをも視野に入れる必要があります。そこで、本学の専攻科では、基礎電子計算機、基礎電子計算機演習、システム制御工学、車体構造学、車体材料学、ゼミ、交通システムをテーマとする交通工学、排気ガス及び環境汚染の現状と対応策を教育する環境工学Ⅰ・Ⅱ及び資源リサイクル、応用数学、材料強度学、構造解析、特別研究、ボデーデザイン演習、車体装備概論、自動車史、保険論などを共通科目として、その上に、自動車の外部的側面である『車体工学コース』と、エレクトロニクスを中心とした内部的側面の『電子機械コース』の二つの分野にカリキュラムを設定しました。『車体工学コース』の場合、車体安全工学、計測工学演習、損傷車体解析演習、損傷修復分析演習、計測工学、塗装工学、車体工学実験Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ、塗装工学実験など。また、『電子機械コース』の場合、電子機械工学、マイコン工学、自動車制御実験Ⅰ・Ⅱ、電子機械工学実験Ⅰ・Ⅱ、マイコン工学実験Ⅰ・Ⅱ、ソフトウェア工学、ソフトウェア演習Ⅰ・Ⅱ、マイコン演習など。

学生ホールの建設

新構想固まり

設計に着手



事務局長
建設委員長
杉浦 慎宣

以上の『専攻科 自動車工学専攻』の次の課題は、『学位授与機構』の認可を受けることであります。これが実現しますと、学上号や大学院進学への道が拓けます。この大きな目標に向かって、一歩一歩、着実に前進しようという決意を新たにしております。卒業生の皆様の御支援をいただきたいと思えます。なお二年課程の専攻科は現在全国でも殆んどありません。勿論、自動車短大では本学が初めてであります。

永年の念願であった学生ホール建設の夢が、確実な足取りで実現への歩みを進めている。

平成二年度までの将来問題検討委員会における基本的コンセプトは、凡そ次のようなものだった。

A 学生主体の施設として、授業や教育活動以外の用に供する明確な目的を付与する。

① 食堂として評価し得る水準の設備と態勢を確保する。

② 授業時間外に談話できるラウンジ機能を併設する。

③ 着衣の着替えや携行品の一時保管場所としての機能を配慮する。

B 学生会事務室を併設し、同窓生と在学生が交流できる場を提供する。

C 建設用地は旧三号館を撤去し、跡地を整地して充当する。

D 旧三号館に収容中の自治会室やクラブ室、教材倉庫、資料倉庫

は移転させることとし、別途対処する。

平成三年度以降、このコンセプトを引き継ぎ、これを具体化するために『学生ホール建設委員会』が組織され、その後各方面からの指摘や提案、他大学の実情視察結果等を踏まえて検討を加え、このほど最終的な構想が固まり、基本設計に向けGOサインを出した。

● 新構想とはいえ、前任委員会の基本コンセプトを尊重踏襲する。但し、相談室、保健室は収容せず、管理棟建設時まで保留し、留学生交流室を設置する。
● 一階部分については大巾に規模を拡大し、全体として余裕を持たせる。

旧案 新案

食堂 324㎡ 250席 432㎡ 284席
ラウンジ 216㎡ 150席 432㎡ 232席

● 厨房機器、外構・造園工事費を含み総工費六億円程度とする。

● 工期は二期に分け、前期工事完了の時点で稼働させ、引き続き後期工事を行う。

● 施設の完工は平成七年三月末とする。

本年度一杯で諸準備を終え、明

年五月の連休明けにはクラブ室や自治会室が移転、解体工事(旧三号館)を終え、夏休み頃から樋音高く本格的な建設工事が始まる予定である。約八ヶ月を経て完工、平成七年の新学期からは完全オープンが実現できるものとして期待している。

翼長六十歳、ほぼ現一号館に匹敵する鳳の完成となり、中日本の新しい目玉となる。

恩師からの

メッセージ

(母校卒業生の就職状況について)



学生部長
中島 靖範

一九六七年(昭和四十二年)、平屋建の二棟と、工場の様な何もない大きな建物一棟から出発した母校。あれから早や、二十六年が過ぎざりました。当時の母校は、本当にないないづくしでした。施設設備は言うに及ばず、教育スタッフ、組織など何もありませんでした。この様な中で、OBの皆さんと理事会、教職員の努力によって今日の母校に育ってきました。

二十六年間の母校の歴史は、私の人生そのものでした。真に感慨深いものがあります。

さて、この四月から学生部長と言う重責を担っている訳ですが、ここでその立場から、卒業生の就職状況についてご報告します。

開学以来、十数年間の卒業生の就職先は、九十%以上がカーディーラーに整備士として就職してきました。しかし、その後は年々整備士志向が薄れ、九十三年三月の卒業生にあつては、その率が六十七%と大変少なくなっています。それでは、他の三十三%がどのような方面へ就職したのか。人数が多い第一位は、機械工業系の製造業です。トヨタ自動車をはじめとした自動車メーカーに十六人、アイシンエイドブリューをはじめとした、車体・部品メーカーに百十一人などです。第二位は、公務員四人を含むJAF等の各種の団体が二十三人。第三位は、日本火災損害調査をはじめとした、損保におけるアジャスターに十五人。第四位は、設計専門会社等十三人となっています。

この様に、卒業生の就職先は年々多様化し、この傾向は今後も強くなっているのではないかと

自動車工学専攻科専門教育科目

区分	授業科目	単位数		卒業要件単位数
		1年	2年	
共	基礎電子計算機	2		16
	基礎電子計算機演習	2		
	システム制御工学	4		
	車体構造学	2		
	車体材料学	2		
	ゼミ	4		
	ポテデザイン演習	2		
	車体整備概論	2		
	交通工学		4	
	環境工学Ⅰ		2	
通	資源・リサイクル		4	26
	応用数学		4	
	材料強度学		4	
	構造解析学		4	
	構造解析学		4	
	特別研究		4	
	自動車史		2	
	環境工学Ⅱ		2	
	保険論		2	
	車体安全工学	4		
計測工学演習	1			
損傷車体解析演習	1			
損傷修復分析演習	4			
計測工学	2			
塗装工学	2			
車体工学実験Ⅰ	1			
車体工学実験Ⅱ	1			
車体工学実験Ⅲ	1			
塗装工学実験	1			
電子機械の分野	電子機械工学	2		10
	マイコン工学	4		
	自動車制御実験Ⅰ	1		
	電子機械工学実験Ⅰ	1		
	マイコン工学実験Ⅰ	1		
	ソフトウェア演習Ⅰ	1		
	ソフトウェア工学	2		
	自動車制御実験Ⅱ	1		
	電子機械工学実験Ⅱ	1		
	マイコン工学実験Ⅱ	1		
ソフトウェア演習Ⅱ	2			
ソフトウェア演習Ⅱ	1			



工学教室主任
高 行 男

今年、一九九三年四月から専攻

専攻科開設にあたり

われまます。卒業生が多方面で活躍してくることは、母校の将来にとって大変重要なことと考えています。しかし今年度は、バブルの崩壊による就職難の波が母校にも押し寄せています。自動車ディーラーに限らず全ての分野の求人数が減少しています。百人を超える不合格者が出ていますが、見通しはついています。ご安心下さい。OBの皆様方の変らぬご支援をお願いすると共に、皆様方の活躍を祈念してご報告と致します。

は、二五年間につちかわれた本科

専攻科の概要を述べようと思います。専攻科は二年課程で、一学年二〇名と小人数ですが、夢だけは大きいものです。すなわち、専攻科

科自動車工学専攻がこれまでの自動車工業科に加えて新しく開設されました。開設にあたり文部省に提出する書類の手続等は事務局長、次長をはじめとする方々に尽力いただき、また専攻科の教育内容については本学工学教室の教員の方々に協力いただき、教授会、理事会の理解の上で専攻科が誕生しました。

専攻科の本学における位置付けについては、本会報一〇号（一九九二年九月一〇日）に宮岡学長が会員諸氏に対する挨拶として述べられています。そこで、ここでは専攻科の概要を述べようと思います。

今後ともよろしく願います。

を育てるには、本学教職員の多大な努力は勿論のこと、会員諸氏のご支援が不可欠だと思いますので、

をベースにして、カリキュラムの基本構想を、学術と現場・社会環境の関係を幅広く学ぶものとし、自動車を総合的に把握する人材育成を目指して専攻科自動車工学専攻としました。

この専攻科のネイミングおよびその内容は、学問的問題をはじめいろいろ検討すべき問題がありますが、それらについては時間をかけて解決して行きたいと考えています。

この専攻科教育は、本学の教育機関としての位置を高める契機になるものと思っておりますが、生まれたばかりの教育課程と専攻科生

認定試験の合格率

技術研修課

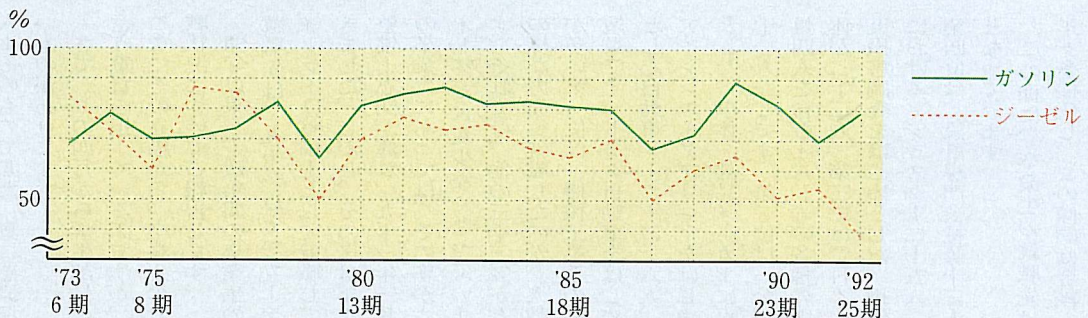
自動車整備士試験に認定試験制度が取り入れられたのは、昭和48年度からで、本学としては第6期生からのことです。

今年で20年になりますが、合格率は横ばい状態になっています。

大学として、年々最善をつくしてきたつも

りですが、今年の認定試験合格率は、ガソリンが平均を維持しましたが、ジーゼルは過去最低の結果になりました。

本年度は、心機一転して合格率がアップするよう努力して行きたいと思っています。



担当教員

実習の紹介



性能Ⅲ担当
林 先生



性能Ⅱ担当
橋場先生



性能Ⅰ担当
桜山先生



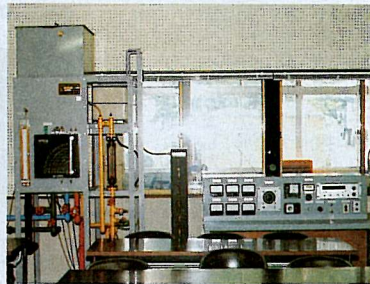
主任
木下先生

本学も創立以来二十六年余になり、時代の変化と共に自動車も大きく進化してきました。特に制御系は機械から電気(電子)に変わり、整備教育においてもその内容の転換が要望されております。本学の実習教育は、永く八科目(基本工作、ガソリンエンジン、シャシ、ジーゼルエンジン、燃料装置、電気装置、特殊装置、自動検査)で行ってきましたが、時代の流れの中にあつて、一部科目名称の変更と新しい科目として今回紹介させて頂きます『自動車性能実習』が加わり多少充実できたのではないかと思っております。

この自動車性能実習は一九九二年四月に二年生の実習科目として開講されたばかりで、現在はまだ試行錯誤の状態であります。先輩諸兄のご指摘、ご指導を頂ければ幸いです。この性能実習の内容は性能実習Ⅰ、Ⅱ、Ⅲに分かれております。

性能実習Ⅰは以前の電気装置Ⅲの動力実験室をそのまま利用し、ガソリンエンジン及びディーゼルエンジンの動力性能(各負荷におけるエンジン回転数、軸荷重、燃料消費量、吸入空気量、冷却水量、入口冷却水温度、出口冷却水

温度、排気ガス温度 e_{tc})を動力計を用いて測定し、燃料消費率、熱勘定、軸トルク/回転数、軸出力/回転数 e_{tc} を算出し、最終的にエンジン性能曲線図を完成させ、エンジンの特性を調べさせる実験実習を行っております。



性能実習Ⅰ

性能実習Ⅱはボッシュ製の簡易型シャシダイナモメータを用いて自動車本体の動力性能実験(X・Yレコーダに直接プリントアウトされる)を行い、グラフより加速性能・最高出力 e_{tc} を求めます。また、シャシダイナモ上において自動車の駆動輪にユニバーサルシステムコントロール株式会社製のホイールトルクメータを取り付け、駆動・制動トルク、走行抵抗 e_{tc} を測定し走行性能曲線図を描かせる。更に各走行状態における騒音と排気ガス(CO、HC)

も測定し、自動車の走行性能一般について行っております。



性能実習Ⅱ

性能実習Ⅲは路上(学内の道路)において自動車を走行させ、マルチディスプレイコンピュータ(VISUAL POWER)による実車走行試験を行い、エンジン出力、エンジントルク、加速度 e_{tc} の測定を行い、また、転がり抵抗、勾配抵抗を測定し、これらより各抵抗係数を算出し、実走行車の走



性能実習Ⅲ

行性能曲線図を完成させます。以上のように自動車性能実習では、実習Ⅰでエンジン単体の性能を、実習Ⅱでドラム上(ローラ)での自動車の性能を、また、実習Ⅲで路面での実走行性能を行っております。さらに、整備士に必要な自動車性能に関する数学上の計算能力の向上も併せて行っております。

ソーラーカー

西側通雄

今、世界各国では『化石燃料の枯渇問題』、化石燃料を主なエネルギー源としている発電所、自動車、工場等からの排気による地球の温暖化、酸性雨、光化学スモッグ等の『地球環境の破壊問題』を取り上げ、検討がなされています。その中で、永遠で無公害な太陽エネルギーが、21世紀の新エネルギーとして注目されています。本学でも、昨年から太陽エネルギーの有効利用をテーマにしてソーラーカーの試作を行い、能登半島で開催された『ソーラーカーラリーイン能登』に参加しました。結果は満足いくものではありませんでしたが、太陽エネルギー

ギーだけを使い音もたず走り出すソーラーカーを見ると、感動するものがあります。今年も、秋田で開催されます『ワールドソーラーカーラリージャパンイン大潟』に参加するため、車両の製作に毎日明け暮れています。

21世紀には、太陽エネルギーで走るソーラーカーと、化石燃料を大切に使いながら走る自動車の共存が実現することを夢みて毎日邁進していきたくと思っています。



静岡県支部 設立について

静岡県支部長

一期生 中山 繁

中日本自動車短期大学学友会の皆様、益々のご発展を心からお喜び申し上げます。

丹地学友会会長の主旨でもございます支部設立を、この度、平成四年十月十一日に、静岡県支部として設立いたしました。設立にあたり、学友会の皆様方におかれましては、大変ご尽力くださいまして、誠にありがとうございます。

ですので、異業種交流などのつながりをご考慮しております。そして、各県支部とのつながりを良くし、いろいろな面で学友会会員の交流を図りたいと思っております。今後とも静岡県支部をよろしくお願い致します。

OB近況

(南オートハウスミヤケ 代表取締役)

十期生 三宅昌彦さん



学友会々員の皆様はじめまして、10期卒業の三宅と申します。

私も幼い頃より車が好きで中日本へ入学しました。当時の学校はお世辞にも立派とはいいがたいもので夏はサウナ、冬は冷蔵庫の様な実習場での授業、今となってはいい思い出です。又学内にはジムカーナ場がありとても懐しく思い出されます。卒業後日産のディーラー、中古車店と勤めた後、予てからの目標であった独立ということで昭和55年地元可児市において「オートハウス・ミヤケ」を開店し現在に致っております。

業務内容は主に欧州車専門で販売・修理を手掛けています。

お近くにお越しの際はぜひお気軽にお立ち寄り下さい。近くに住んでいるが母校には御無沙多致しております。聞くところによりますと、キャンパスも近代化され昔の面影はなく、又卒業生の数も一万三千人を超え全国にいたる所、各方面で御活躍のことと伺っております。

私も卒業生の一人として、皆様には負けない様頑張っていきたいと思っております。最後に母校の増々の発展と、学友会々員の皆様、そして恩師の先生方の御健勝、御活躍をお祈り申し上げます。



東京海上
十九期生
損害調査(株)
中島一秀さん

私は、中日本を卒業してから、ディーラーで仕事をいたしました。が、今は東京海上損害調査(株)という会社で、車輛の事故等の損害調査や、事故の原因調査といった仕事をしております。ディーラーで事故車輛の写真を撮ったり、コンベックスで寸法を計ったりと大変地味な仕事です。また、修理先の方と作業工賃や、作業内容の打ち合わせ

せといった大変難しい仕事でもあります。

私は、この仕事は、本当にやる気のない人にはできないと思えます。また、常に学ぼうという姿勢でないと良い仕事ができないと思えます。というのは、中日本で学んだ自動車構造でも、一台の車輛だけではなく、色々なメーカーやグレード等によっても多少異なるといった様なことまで、その全てのことを知るのには不可能かもしれませんが、少しでも努力しなければ、打ち合わせどころか見積りも書けないという様な事まで起こります。

最後に、今の仕事でも、中日本で学んだことは、大きな力となっております。後輩のためにも頑張っていきたいと思っております。



大同メタル
工業(株)
二十三期生
杉野 剛さん

早いもので、中日本を卒業して三年も経ちました。現在、私は大同メタル工業で軸受メタルの性能評価試験のエンジンベンチを担当しています。エンジン部品の中でも軸受(転がりではなく滑り)は、非常に重要かつ

繊細で緻密なものと自負し(自分でそのように思いこんで)業務に励んでいます。性能試験では、各メーカーのエンジンに試験メタルを組付け、各条件に合わせて試験を行っています。試験メタルを組付けるときなどは、大学の実習の延長線上にある感じを受けます。特にメタルのオイルクリアランス調整(これが重要だと思います)などは大学の実習でも行った記憶があります。

性能評価試験には色々なものがあり、短時間で終わるものや、逆に非常に長いものもあります。自分が携わり印象深いことは、耐久試験等で何百時間にも及ぶ過酷な試験条件でも、メタルに何の支障もないときなどで、メタルの不思議さ難しさを実感します。

今では、自分の他に三人も中日本の卒業生が入社しているので、先輩として、恥かしくないように、努力していかねければと思っています。

在 学 生

今回は、現在々学中の一年生三名と、今年から開設された専攻科の学生二名に登場してもらい、本

学に対する感想、学生生活、将来についてレポートしてみました。



一年
岐阜県
鷺谷高校
郷 有加里さん

入学してから月日が経ち、少しづつこの学校の雰囲気にも慣れてきました。高校時代、周りは女子ばかりに囲まれていたので、今の雰囲気慣れるのに「ドキドキ」しながら学園生活を送っています。

生活していくうちに仲の良い友達がたくさんでき、とてもうれしです。友達の中にも県外から来た人が多く、方言に特徴があり、とてもにぎやかで、私もその言葉が移ってしまうほどでした。

学校の授業はとても難しく、ついていくのに大変で、実習では、初めてエンジンを分解したり、動かしたりすることすべてに驚いています。しかし、友達に教えてもらいながら乗り越えていきたいと思っています。

自分で決めた道だし、私なりに夢もあるのだから、それに向かっがんばりたいと思います。

多くの友達をつくり、幅広い知識を取り入れて、卒業できるよう

にがんばり、楽しい学園生活を送りたいと思います。



一年
神戸市立
兵庫商業高校
尾上幸子さん

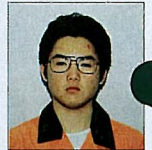
四月に期待と不安で胸をいっばいにふくらませ、この中日本自動車短期大学に入学し、三ヵ月半が過ぎました。学校生活、寮生活にもようやく慣れ、先生方、先輩方のやさしい心づかいで、今では毎日充実しています。

今、一番の不安は、やはり学業です。実習は毎時間が初めて勉強することばかりで、少しでも聞きのがすとわからなくなってしまうので真剣です。一つ一つの部品などについて、これは何だろうと好奇心を持ち、次々に質問しています。少しうっとうしがられているかも……?

実習授業は班ごとに分かれて行っているのですが、班の人達と悪戦苦闘しながらワイワイと楽しくやっています。

私は、この実習の時間が今は好きです。そして、この中日本のアウトホームな雰囲気も好きです。これからも、この中日本で色々なことを学んでいきたいと思っています。

一年
栃木県
作新学院高校
上川和彦さん



私が卒業した高校は、皆様の中にもご存じの方がいらっしゃると思いますが、元巨人の江川投手の母校でもあります。また、色々な科があり、私は電気科を専攻しました。

この電気科は、ほぼ十割の就職率がありますが、私はあえて進学をしました。とくべつ勉強ができるわけではありませんが、車には子供の頃からかなり興味がありました。

入学してから三ヵ月が過ぎようとしています。自分の周りがめまぐるしく動いていて、徐々に慣れできましたが、まだわからない事も多くあります。しかし、大好きなことなので頑張っていきたいと思っています。

二年後には、地元に戻って保険関係の仕事に就きたいと思っています。それまでに、本学のOBである皆様方に恥じない様に、一生懸命に勉強をしていきたいと思っています。

専攻科
車体工学専攻
水野隆二さん



今年から中日本短大で自動車工学専攻科が設立し、本大学において自動車業界に対し、大きく飛躍する機会が到来しました。

本来、私は本科二年間の課程を修了して、自動車産業において技術開発の仕事に就く予定でしたが、今年から専攻科が開設することになり、自動車工学を現在のレベルよりも更に向上させ、社会のあらゆるニーズに対応して行きたいと思い入学を決意しました。

私は専攻科の課程で車体工学を専攻して、勉学に励む毎日であります。授業内容は、実際に自動車をさまざまな方向から衝突させ、何故この様に損傷したのか事故解析を行ったり、自動車事故での必要不可欠な車両見積りにおいて、自動車構造の要素から学び、損傷診断技術、復元修理技法を通して、最後にはコンピュータを使って見積書の作成をしたりと数多くの科目が設定されており、専攻科第一期生である私としては、中日本の学生という誇りをいつまでも持ち続けたいと思っています。



専攻科
電子機械専攻
井贖賢 久岳さん

私は、中日本自動車短期大学の本科を無事に卒業でき、専攻科の第一期生として入学することができました。

専攻科に入学する前までは、いろいろな不安がありました。授業ではどんなことをするのか、就職はできるのかなどです。しかし、授業はパソコンを使用してのC言語、CAD、ワープロなどを行ったり、色々な物をハンダ付けをして回路を作ったりしています。実習では、本科の時にあまりできなかった

「夫婦で待ってしまおう行事」 になった文化講演会

昨年十一月三日に第三回目の文化講演会を地元美濃加茂市文化館で開催しました。

今回は『チンパンジーから見た世界』と題して、京都大学霊長類研究所(愛知県犬山市)の松沢哲郎先生をお招きして行いました。

京都大学の松沢先生というよりも、鍵を開けてオリを抜け出たチンパンジー「アイちゃん」の研究



者といった方がわかり易いかもれません。

先生は、比較認知科学という新

かったことが少人数でできます。ゼミでは、セラミックス、ドラッグレース、スターリングエンジン、一台の自動車の分解など、一人一人自分の興味のあることに取り組みることができ、また、三菱自動車、カヤバ工業などが来られ、空力特性、シヨックアブソーバなどについて話をしてくださいます。

就職については、第一期生ということで、どんな企業から求人にくるかかわらず、まだ不安のままです。

あと一年半は、有意義に過ごしてゆきたいと思っています。

しい分野の研究者です。平たく言うとうと、人間の知覚、とくに視覚に関する心理学的研究で、「ヒトはなぜ左右に並んだ二対の目をもっているのか」「一眼と比べてどういう利点があるのか」など、ヒトの認識のあり方の研究です。

この研究のため、人間に最も近いと言われるチンパンジーが研究の対象となり、それがアイちゃんとの出会いとなった訳です。

チンパンジー(アイちゃん)には、色や物の形がどのように見えるのか、数は数えられるのかなど、さまざまな実験を通じて得られた研究成果の一部を、凡人の私達にもわかり易く見事に講演して頂きました。

講演後聴衆者(約280名)に対してアンケートを行ったところ、98%を超える方から「たいへん満足した」との回答がありました。これは、過去2回の講演をはるかに上回る結果であり、主催者としてこの上ない喜びとするところであります。

また、「過去三回とも聴講しているが、夫婦で待ってしまおう行事になった」とか「講演会という」と、とかくタレント性の高い講師

で人数集めをしがちであるが、学友会はいつも内容重視で大変好感がもてる」など、学友会に対する評価も年々向上していることが伺えました。

キャンパスグッズ作製について

今回、初の試みとして、キャンパスグッズの一部を作製することができました。物品選定に苦慮しましたが、キーホルダーとマグカップに決定しました。デザインや色、その他いろいろな意見があり、まとめるのは難しかったのですが、委員会に一任されましたので、写真のような物になりました。

「継続は力なり」ということわざがありますが、今後とも地道に回数を重ね、会員がお世話になった地域社会の方々へ少しでもご恩返しができるばと考えています。

きたいと思っています。

なお、OBの皆様にも販売したいと思しますので、どうぞお申し込み下さい。また、グッズについて何かご意見のある方も、どうぞご連絡下さい。

◎販売価格

キーホルダー 三五〇円

マグカップ 六五〇円

セット(キーホルダー十マグカップ) 八〇〇円

※いずれも消費税、送料込の価格です。

◎申込方法

現金書留または郵便為替でお願います

◎申込先

〒5005

岐阜県加茂郡坂祝町一三〇一
中日本自動車短期大学

学友会事務局内
キャンパスグッズ係



販売時期を、91年度生卒業間近に設定したこともあり、意外に多く売れ、追加作製するほどでした。

今後、さらにTシャツやトレーナー、キャップ等品数を増してい

平成5年度 事業計画

1. 総会の開催
今年度は移動総会とし、支部からの立候補を募る。また、開催の日程については、開催支部と調整をはかる。
2. 二十五周年記念事業
名簿の作成をする。
3. 会報の発行
従来通り発行する。
4. 支部設立に向けて一層積極的な取組を展開する。
岐阜トヨベット支部は、今年中に設立する。
5. キャンパスグッズの一層の充実をはかる。
6. 大学との懇談会を行う。
7. 準会員との交流会を行う。
8. 講演会の開催をする。
9. 退職者に記念品を贈呈する。
10. 卒業生に記念品を贈る。
11. 積立金(学友会館設立積立、奨学金積立)をする。
12. 奨学金支給に関する委員会を設置し、検討を始める。
13. OBへの福利厚生をする。

1991年度 監査報告

私どもは、中日本自動車短期大学学友会の1991年8月1日から1992年7月31日までの1991年度経常資金収支計算書、会計区分別資金増減計算書、貸借対照表及び附属明細表と併せて会務の監査を致しました。

監査の結果、これらの財務諸表は上記期間の収支及び1992年7月31日現在の財務状況を適正に表示しており、また会務は役員会及び総会の議を得て適正に行われているものと認めます。

1992年11月26日

1991年度 決算報告書書(経常収支計算書)
1991年8月1日から1992年7月31日まで

監査 桜谷興道



監査 佐藤一夫



1992年度 収支予算書

1992年8月1日から1993年7月31日まで

科 目	予算額 (a)	決算額 (b)	比較増減 (a)-(b)
(期間収支の部)			
期間収入			
1. 基金運用収入	0	1,373,017	(1,373,017)
2. 会費収入	14,000,000	14,937,000	(937,000)
3. 事業収入	300,000	0	300,000
4. 雑収入			
(1)受取利息	90,000	863,682	(773,682)
期 間 収 入 合 計	14,390,000	17,173,699	(2,783,699)
期間支出			
1. 事業費	6,200,000	7,450,025	(1,250,025)
(1)会報製作費	1,200,000	2,226,309	(1,026,309)
(2)特別企画費	2,000,000	920,418	1,079,582
(3)記念品費	2,500,000	2,487,000	13,000
(4)支部活動費	300,000	1,547,427	(1,247,427)
(5)広報費		180,250	(180,250)
(6)補助金	200,000	0	200,000
(7)事業雑費		88,621	(88,621)
2. 会議費	1,400,000	1,737,014	(337,014)
(1)総会費	600,000	508,290	91,710
(2)役員会費		366,454	(366,454)
(3)役員会旅費	800,000	862,270	(62,270)
3. 事務費	1,500,000	1,063,446	436,554
(1)人件費	100,000	0	100,000
(2)通信印刷費	1,000,000	1,041,725	(41,725)
(3)事務用品費	400,000	10,947	389,053
(4)事務雑費		10,774	(10,774)
4. 予備費	200,000	0	200,000
期 間 支 出 合 計	9,300,000	10,250,485	(950,485)
期 間 収 支 差 額	5,090,000	6,923,214	(1,833,214)
(振替収支の部)			
振替支出			
1. 基金会計へ	6,000,000	3,000,000	3,000,000
(1)学友会館建設基金	4,000,000	2,000,000	2,000,000
(2)奨学金積立基金	2,000,000	1,000,000	1,000,000
振 替 支 出 合 計	6,000,000	3,000,000	3,000,000
当 期 収 支 差 額	(910,000)	3,923,214	(4,833,214)
期 首 資 金 残 高	26,015,655	26,015,655	0
期 末 資 金 残 高	25,105,655	29,938,869	(4,833,214)

科 目	92年度予算額 (b)	91年度決算額 (a)	比較増減 (a)-(b)
I. 収支の部			
1. 基金運用収入	1,373,017	1,200,000	173,017
2. 会費収入	14,937,000	14,000,000	937,000
3. 事業収入	0	100,000	(100,000)
4. 雑収入			0
(1)受取利息	863,682	800,000	63,682
当 期 収 入 合 計 (A)	17,173,699	16,100,000	1,073,699
前 期 繰 越 収 支 差 額	26,015,655	29,938,869	(3,923,214)
収 入 合 計 (B)	43,189,354	46,038,869	(2,849,515)
II. 支出の部			
1. 事業費	7,450,025	12,800,000	(5,349,975)
(1)会報製作費	2,226,309	2,300,000	(73,691)
(2)特別企画費	920,418	3,500,000	(2,579,582)
(3)記念品費	2,487,000	2,500,000	(13,000)
(4)支部活動費	1,547,427	2,000,000	(452,573)
(5)広報費	180,250	200,000	(19,750)
(6)補助費	0	200,000	(200,000)
(7)事業雑費	88,621	100,000	(11,379)
(8)福利費	0	2,000,000	(2,000,000)
2. 会議費	1,737,014	2,700,000	(962,986)
(1)総会費	508,290	1,200,000	(691,710)
(2)役員会費	366,454	400,000	(33,546)
(3)役員会旅費	862,270	900,000	(37,730)
(4)役員懇親会費	0	200,000	(200,000)
3. 事務費	1,063,446	1,580,000	(516,554)
(1)人件費	0	450,000	(450,000)
(2)通信印刷費	1,041,725	1,100,000	(58,275)
(3)事務用品費	10,947	20,000	(9,053)
(4)事務雑費	10,774	10,000	774
4. 基金財産設定支出	3,000,000	6,000,000	(3,000,000)
(1)学友会館建設基金	2,000,000	4,000,000	(2,000,000)
(2)奨学金積立基金	1,000,000	2,000,000	(1,000,000)
5. 予備費	0	100,000	(100,000)
当 期 支 出 合 計 (C)	13,250,485	23,180,000	(9,929,515)
当 期 収 支 差 額 (A)-(C)	3,923,214	(7,080,000)	11,003,214
次 期 繰 越 収 支 差 額 (B)-(C)	29,938,869	22,858,869	7,080,000

注1 当決算期より勘定科目の一部見直し等を行ったため、予算設定費目と決算費目において一部科目の相違がある。
そのため、決算額のうち、予算額を超える分についての支出明細の注記は行っていない。

注2 支部活動費の内訳 (計 1,547,427)
 ①岡山支部 843,000 ②名古屋支部 557,777
 ③愛知支部 91,650 ④岐阜トヨベット支部 55,000

注3 消費税の会計処理は、税込方式で行っている。

大学祭の案内

学生自治会執行委員長
加藤 光 裕

本年度の大学祭は十月二十三日から二十五日の三日間で行われます。現在、自治会は大学祭に向けて全力で活動しています。

今年のテーマは『Burn U』に決定しました。今まで以上に大学祭を盛り上げるために完全燃焼するつもりです。

計画されているイベントは盛り沢山です。今年の目玉は誰でも参加可能なオークション、そしてグルメには堪えられない留学生による郷土料理です。前年同様、プロコンサート、模擬店、映画等企画しております。大学祭の当日には皆様方の御来学をお待ちしております。



大学祭実行委員

25周年記念

会員名簿

作成中

中日本自動車短期大学は、今年25期生を社会に送り出し、卒業生は13,800名を越えました。

また、学友会員の二世が、中日本自動車短期大学にお世話になる現在です。そこで、25期という区切りで、25周年記念「会員名簿」を作成中です。価格は送料込みで4,000円です。完成は10月末頃を予定しています。

購入を希望される方は、同封の葉書の通信欄に、「名簿購入希望」と記入し、お送り下さい。振り込み用紙を発送します。

尚、名簿委員会では、毎年会報を通じ、会員の皆様の住所、勤務先等の変更に対応すべく努力していますが、宛先不明で毎年返送される数も多いです。住所等変更が生じた場合は、同封の葉書に整理番号（わからない場合は学生番号、卒業年度、クラス等分かる範囲）を記入して、学友会事務局までお知らせ下さい。

代議員総会

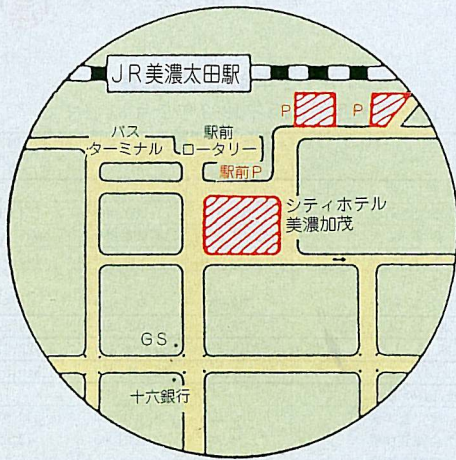
開催のお知らせ

平成五年度代議員総会を左記の要領で開催します。

代議員各位には、ご多用中誠に恐縮ですが、万障繰合わせの上、ご出席下さいますようお願い致します。また一般会員の方々のご出席についても、オブザーバー参加として歓迎します。

日時 平成五年九月二六日(日)
午前十時〜十二時

場所 美濃加茂シティホテル
議題 一、平成四年度事業報告
一、平成四年度
決算報告・監査報告
一、平成五年度・六年度
役員の見出し
一、平成五年度
事業計画及び予算
一、講演会の開催について
一、会員に対する福利厚生
施設について
一、その他



案内図

編集後記

会員の皆さんお元気ですか。今年も学友会報をお届けする時期となりました。

今回は、四月からスタートした自動車工学専攻科に関連した記事と、新たな目標を目指している学生の方にも原稿を書いてもらいました。

また、学友会にとっても嬉しいニュースがあります。念願であった学生ホールの建設にGOサインが出されたことです。そのホール内には学友会事務室も併設されることとなっていますので、完成が待ち遠しいといったところで。そして、カリキュラムの変更で新科目となった自動車性能実習の紹介など、卒業した頃とは学内の雰囲気も少しずつ変わってきたかもしれせん。そんな感じのする第十二号です。

最後に、発刊にあたり御協力いただきました方々に心より厚く御礼申し上げます。

- 会報委員
メンバー
- 林 文明 栗木江一
 - 久世康司 森 光弘
 - 中川 実 高橋正則
 - 藤田英樹 渡辺勝夫
- (撮影) 清水啓司